

# コロナ禍における地域の子育て支援 ～おやこふらっとひろば 北（愛称 にじっこ）2年目実践報告～

久保木 亮 子

Regional childcare support under COVID-19 pandemic

～Oyako Furatto Hiroba Kita (nicknamed Nijikko) 2<sup>nd</sup> year practical report～

Ryoko KUBOKI

## はじめに

令和3年度「おやこふらっとひろば 北 愛称：にじっこ」の運営は、2年目を迎えた。

「にじっこ」の目的は、子育て親子の支援を中心にしながら、子育てサークルやNPO法人、行政機関など、地域の様々な団体・機関と積極的に連携した事業を実施するなど、地域団体の参画と連携のもと、外部に開かれた場所にしていくことである。

未就園児（0～6歳）の親子が、ふらっと立ち寄り、安心して遊んだり、絵本を読んだり、ママ同士が子育てについて話し合ったり、子育てにおける悩みについて、「にじっこ」保育士（以下、スタッフと掲載）に気軽に相談できる、安心で居心地の良い場所を目指している。

しかし、コロナ禍においての運営（開館）を鑑みると子育て親子の居場所として求められているが、感染拡大につながる危険性も含まれている。そこで、地域における子育て支援「にじっこ」の必要性と安全性を踏まえた2年目の実践報告をしていきたい。

キーワード：子育て支援、連携、安心安全、保育の質の向上、コロナ禍の運営

## 1. 「にじっこ」が掲げるコンセプト （2020.4.1）

- ① 「親子が安心して過ごせる落ち着いた空間を提供する」  
「やすらぐ」空間・居心地の良い場所が親子の時間を豊かにする
- ② 「絵本で子育てを支援する」  
「読みたい」絵本、読書に誘う力を持つ絵本を子どもたちに届ける
- ③ 「興味・関心に即した玩具等に出会い、心身が満たされて遊ぶ場を提供する」  
「厳選された玩具」を使って親子で遊ぶ楽しさが味わえる

## 2. 「にじっこ」の独自性

- \* 「絵本を活用した事業の実施」  
→絵本の良さについての情報提供、読み聞かせ、わらべうたのイベントの実施
- \* 「子育てや子育て支援に関する情報の提供」  
→保育・幼児教育の専門的知見からアドバイスが可能

\* 「子育てに関する相談・援助対応」

→保育・幼児教育に加え、心理学の知見から対応可能

\* 「良質な絵本の選定」

→専門的知見を活かした選書（本学 文学部 国際文化学科 笹倉剛教授 監修）

### 3. ストロング・ポイント①

\* 大学の有する専門性を活かす

→子育てに関する情報の提供

子育て支援ひろば「すくすく」、おやこふらっとひろば 北「にじっこ」心理・教育相談室

文学部 国際文化学科、心理学科、教育学部 児童教育学科、スポーツ教育学科、福祉臨床学科（2018年度入試をもって募集停止）スポーツセンター、図書館、福祉施設など（学科名称変更を記載）

### ストロング・ポイント②

\* 運営における学生の参加

→保育職・教育職・福祉職などを目指す学生

保育・教育領域の知識

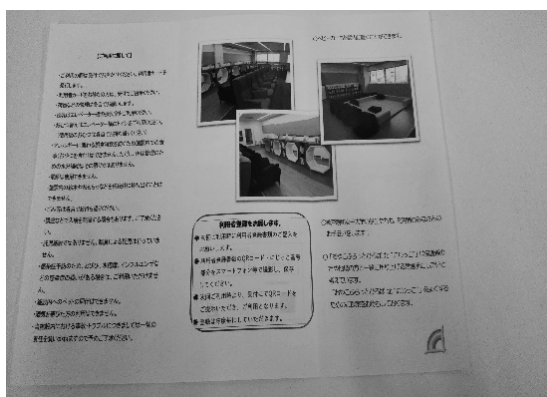
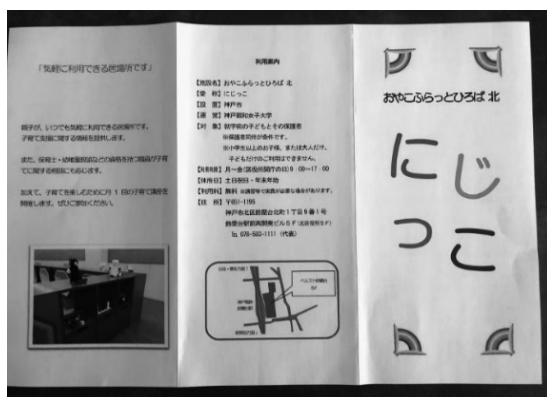
心理領域、司書領域の知識などを持ち合わせた良さ

北区の将来を担う若年層へのアピールも可能

### 設置者の想い

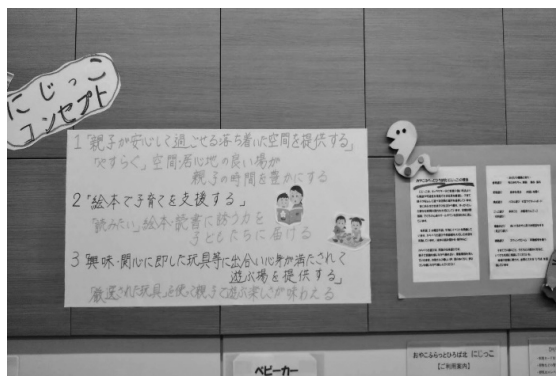
\* 神戸市北区にある高等教育機関として、私たちが有する資源を活かし、北区の子育て支援事業の一端を担うことで、地域への貢献を一層進めていきたいと考えている。

### “にじっこ”パンフレット（配布用）



利用登録カードに代わりスマホ登録

## にじっここのコンセプト



利用者に「にじっこ」のコンセプトや理念を理解していただくために掲示している。

また、各コーナー遊びが、どのように子どもの育ち、成長を促すのかなども説明している。

### <令和3年度、利用手続きの改定>

年度も改まり、今年度の利用状況を把握するため利用登録を行うことにした。

利用者も母親の職場復帰、幼稚園、こども園、保育所、小規模保育所などへの入所園とメンバーに変化がみられる。また、利用登録時にカード（紙ベース）を配布していたが、紛失、忘れる、ぼろぼろになってしまうなどの欠点があるため、スマホで登録番号、QRコードを撮影、保存して利用時に提示していただく方法に変更した。ママが登録して次回パパの利用ということになっても登録番号を共有していただくことで、正確な利用状況と便利さがある。利用者からも「便利です」「忘れてこなくて助かります」など、上々の反応を得ている。

### <保育士の質・保育士の資質の向上を目指して>

本学、子育て支援「すくすく」と連携、協働して学びを深めていく一環として、合同学習会及び相互施設の見学、意見交換会を行った。

開所1年目には、なかなか実施できなかったが、2年目を迎え大学運営の「ひろば」が目指す子育て支援を追求していきたいと思う。

### <職員研修>

#### レッジョエミリア・アプローチ研修

2021.1.19

講師：津田純佳

#### \*レッジョエミリア・アプローチとは

- 子どもたちの意思や個性を尊重し、個々の感性を生かすことが最も重要という理念のもと表現力やコミュニケーション能力、探求心、考える力などを養うことを目的とした幼児教育実践法を行っている
- レッジョエミリア市は、イタリア北部（17万都市）、移民が多く多文化、多人種が生活する財政豊かな町  
戦後、市民によって幼児学校が作られた教育に熱心な町  
昔からレジスタンス運動が盛んな地域で、市民が政治に参画している  
市の考え方：「子どもは生まれた時からすでに市民である」「良き市民を育てる」
- 市立保育園・幼稚園：33園 0～6歳（一括所管）保育園3か月～3歳、幼稚園3～6歳  
マックス・マーラ（ブランド）創業の町

・「プロジェクト活動」保育士が指示を出すのではなく、子どもたち・保育士・アトリエスタ（美術専門家）・ペダゴジスタ（教育専門家）・保護者が一体となって保育を進めていく

・「プロジェクト活動のメリット」

- ・自分の考えを主張する自主性が身につく
- ・友だちの意見を聞き、話し合っって進めていく協調性が身につく
- ・思い通りにならないことから、自分の気持ちを調整する力が育つ
- ・自分たち自身で目的を見つけ出す探求力が育つ
- ・共同活動の中で自分の役割を見出し理解できる
- ・子どもたちが自由に使える広場「ピッツア」・エントランス・アトリエ・各部屋・食事スペース・午睡スペース・調理室がある 各部屋は広場「ピッツア」を中心につながっている 室内は窓や天井から光がふんだんに取り入れられ、観葉植物がたくさん飾られている
- ・「アトリエ」には、ドラムセットやパソコン、顕微鏡、自然の木や枝、小石など様々な教材・素材が常に用意されている 「アトリエ」は、常に変化するフレキシブルな場（実験室）的な要素を持っている

<子どもは研究者である>

- ・環境は「第3の先生」・環境、自然の重要性
- ・「美しくさを知る子どもと知らない子ども」・美しさを知る子どもは、美しくないものや不快だと感じ取ることができる 知らない子どもは、美しい、不快だということすら感じられない

\*世界こどもの日

- ・子どもが子どもらしく存在する権利
- ・居心地の良い環境で質の高い教育を受ける権利

\*講師紹介：レッキョエミリア・アプローチ アトリエスタ

- ・国内外の優れた実践例を参考に日本独自のアプローチを模索し、先進的な教育啓蒙活動と指導者養成を行う
- ・2021年度2か月に1回、レッキョエミリア・アプローチの理解、指導のため大学「すくすく」に来訪（月曜日もしくは火曜日）
- ・「すくすくの思い」：触って感じて、わくわくして、不思議だなあ、面白いなあ
- ・「テーマ」：光と影、鏡、自然光と人工光、自然（隣の土地）
- ・レッキョエミリア・アプローチ導入に関して、すくすくプログラムとして募集をかけるのではなく、日々のあそびの中で実践していく
- ・ウィクリープログラムは2021年度中止 学生も参加できる新プログラム検討中

\*4/26（月）～5/11（火）緊急事態宣言発令のため「にじっこ」が休館となった。

この機会を利用して、職場内学習会、在宅研修、大学「すくすく」保育士との合同研修会を行なった。以下に、各研修内容を報告する。

参加者：講師、学長、副学長、猪田、森、須増、地域交流3名、すすく5名、久保木

- \* 「すすく」での子どもの様子（本学学生に向けた動画 10分視聴）
- \* レッジョの目指す「すすく」活動とは
  - 正解のない場所、間違いこそが学びに繋がる
  - 探求、研究する場所
- ・ サウンドガーデン
  - フライパンなどの台所用品を取り揃えているが、家庭では使って遊べない物である
  - もっと自然素材の貝殻、丸太、枝等を用意する方がよい
  - もう少し、設置を低くして扱いやすくなる方がよい
- ・ あそびのコーナー（鏡など）の所に材料棚、机などを設置する
  - 子どもが材料を取り出して遊ぶので、すぐそばに棚、机があると関係性が理解できる
- ・ 光と影を楽しむ
  - カラーセロファンで作ったものを窓辺に飾る
  - シートはニュートラムな形（長方形・四角等）単純なものを用意する
  - ハート、星型などは、それ以上にイメージがわからない
- ・ 受付の壁に鏡を貼り付けているが、子どもが手に取って遊べるようにすると楽しい
  - そのためにはガラスの鏡では危険なので、プラスチック鏡シートが良い
- ・ 壁にプラスチック鏡シートを貼る（低い位置）
  - 鏡の前で自身を映して遊ぶ
- ・ アルミのロール紙、ロール紙、段ボールロール紙を床に道のように敷き絵を描く その紙をくしゃくしゃにして描くのも楽しい 反射を楽しむ
- ・ カーテンの活用
  - 室内（コーナー）に区切りがあってよい 2面のカーテンがあるので1面ずつ素材を変え、素材感を楽しむ（厚手、薄手、ブルー、白など）
  - カーテンのように垂らすだけでなく、タープにして天井のように利用するのもよい
  - 子どもの視線を上下、左右へと向ける工夫を
- ・ プロジェクター・OHPの活用
  - カーテンに映っている影を追いかけて楽しむ 床に映すよりも正面に投影する方がよい
- ・ 光のテーブル（ライブテーブル）
  - 壁から離して置く 室内を暗くしなくても、通常の明るさで楽しんでよい など
- \*すすく保育士と子ども・保護者が探求、研究、発見しながら楽しむ
  
- \* 大学子育て支援「すすく」職員と合同研修会（5/6、7）
  - 「すすく」がレッジョ活動を実施するために、必要な道具、遊具を設置し環境構成を整えている。レッジョの理念、実施方法の理解を図るために、相互で勤務する保育士の合同研修会を行なった。利便性の良い、「にじっこ」に集合し、施設見学、「にじっこ」の理念、運営方法、意見交換を行い、引き続き「すすく」に場を移しての研修会となった。同法人で地域の子育て支援に関わっているが、互いの施設の環

境構成や運営方法などを話し合うことがなかったので、この合同研修会が相互理解、情報の共有に繋がり今後の連携に役立つと考えられる。

### \* 職場内学習会

～夏を元気に過ごすためのあそび・生活・感染症について～

#### < 熱中症に気を付けよう！ >

- ・脱水症状に陥らないように、喉が渇いてなくてもこまめに水分補給をする  
糖分の多いジュース・利尿作用があるカフェインを多く含むドリンクではなく、水や麦茶などの吸収されやすい物を多く摂る（水は常温の水がベスト）

#### < 室内では >

- ・子どもは調節機能が未熟 エアコンの温度は27度くらいに弱めに設定しつつ、保冷剤が入るポケットが付いたスタイを身につけて快適に過ごす
- ・コットンガーゼと接触冷感生地で作られたタオルは水で濡らして絞り、首元につけるとひんやり涼しく快適になる
- ・ミニ冷風扇の利用  
クーラー程冷たくない水分を含んだ冷風は、空気が乾かさず肌にも喉にも優しい 水や氷を入れて自分（子ども）にとって一番心地よい風を作る クーラー・扇風機が付いていてもキッチン・洗面所・トイレ等、暑い場所があるので持ち運べるので便利
- ・風鈴の涼やかな音を楽しむ  
室内では、首振り扇風機などで涼をとりながら楽しむ

#### < 屋外では >

- ・吸水速乾性に優れたスポーツウエア素材を使用したトップスで蒸し暑い屋外でも快適  
体温調節が楽になり、ストレスフリーになる
  - ・帽子にインしてひんやり炎天下の暑さ対策、水に濡らして帽子に入れる（ヘッドクール）
  - ・洗える接触冷感メッシュマスク  
冷凍庫にマスクを冷やしておく ハッカ油スプレーをマスクの外側にワンプッシュ吹きかけるだけで清涼感が感じられ心地よい
  - ・ハンディファン  
首から下げて使うハンズフリーのポータブル扇風機
  - ・細かいミストが出る、真空断熱ステンレスボトル  
水分補給しつつミストでも涼める 1つで体の内側と外側両方潤す（ボトルの中にミストタンクを差し込む構造）
- \* 室内を涼しくし過ぎて乾燥し過ぎると、肌がごわついたり喉の粘膜が乾きやすくなり、風邪にかかるリスクが高まる 1年を通して湿度50%くらいが快適と感じる エアコンと合わせて除湿器や加湿器などを上手に併用して調整する

### \* 子どもに多い夏の感染症

#### < ヘルパンギーナ >

症状：熱と強いのどの痛み 数日で自然に収まる病気だが、のどの痛みのため、飲み物・食べ物が摂れないことがある 腸のウイルスで何回でもかかってしまう

夏風邪の一種 38～40度の高熱が2～3日続く（大人も時々感染する）のどの奥に小さな口内炎が多数でき、非常に痛いため飲んだり食べたりができない

水分が十分に摂れないと脱水症になることもある 年長児の場合、突然の高熱のみで口内炎ができないこともあり扁桃炎と間違えることもある

**感染経路：**咽頭からの飛沫、糞便からの糞口感染 潜伏期間は3～4日

**治療：**治療薬はない 熱やのどの痛みを抑える薬（解熱鎮痛剤）を使う 水分摂取はこまめに少しずつ行い、脱水症を防ぐ 口内炎を治療すれば2日間程度で元の栄養状態に戻る 高熱が続くが熱冷ましを使い過ぎず、涼しくして室内を快適な温度にする 熱があっても特に具合が悪そうになれば、汗を流してもよい 予防接種はない

**食事：**ミルク、ミルクケーキ、アイスクリーム、プリン、ゼリーが良い ヤクルト、ヨーグルト、果物、トマトなどは乳酸や酸を含むため口内炎が痛むので適していない

#### <プール熱>（咽頭結膜炎）

**症状：**ウイルスは口、鼻の中やのどの粘膜から体の中へ入り込んで感染する

38～40度前後の発熱・咽頭痛・結膜炎が主な症状で嘔吐や下痢を伴うこともある

発熱は3～7日間程度、咽頭痛は3～5日続く 目は痛みやかゆみがあり、目やにが出てまぶしくなったり涙が止まらなかつたりする 症状が治まった後もウイルスの排出は咽頭からは発症7～14日間、便からは30日間程度続く

非常に移りやすいので慎重に対応する 潜伏期間は3～6日程度

**感染経路：**患者からの飛沫感染、接触感染 家庭内では飛沫感染の他、感染者とのタオルの共用などからの接触感染である（プールに入っていないなくても感染する）

結膜からの感染、便を介しての経口感染、目やにからの感染がある

**治療：**十分な水分・栄養を摂る 喉が痛くなるので食欲不振になるので脱水症状に注意する刺激の少ない硬くない食べ物（プリン・ゼリー・アイスクリームなど）果物やトマトなどは酸が含まれ刺激があり咽頭痛がひどくなる ヤクルト・ヨーグルトも乳酸菌を含むので適切ではない

#### <手足口病>

**症状：**口内炎が口の前側や舌に多発する ヘルパンギーナの症状に似ている 手足の水疱と口内炎ができる夏風邪の一種で、5～8月ぐらいに流行する 最初の1～2日の間熱が出ることもあるが38度の熱が出る子どもは全体の30%前後 半数の子どもは熱が出ない年長児・大人の感染は口腔内だけに水疱ができ手足に水疱ができないこともある 足の裏に水疱が出来た場合激しい痛みのため歩行困難になることもある 口や舌にできた口内炎も非常に痛いので食べたりができない 水分を十分に摂れないと脱水症状になることもある

**治療：**特別な治療薬はない 水分摂取を行い口内炎が治癒すれば2日程度で元の栄養状態に戻る 水疱がつぶれると細菌感染がおこるのでつぶれないように気を付ける ウイルスは腸のウイルスが多いため下痢を伴うことが多いが、重症な下痢になることはほとんどない 吐いたり、高熱が続く頭痛などを訴えたりする場合は要注意

**食事：**ミルク、ミルクケーキ、アイスクリーム、プリン、ゼリーなどが良い ヤクルトやヨーグルト乳酸菌を含むため口内炎が痛む 果物、トマトなども酸を含んでいるので適さない

\* おすすめ絵本について

<乳児編> \* ポイントとなる事項を理解しておく

ことば：心地よいリズム、響きの面白さ

赤ちゃんへの語り掛けを豊かにする

絵：写実的に生き生き描かれた絵

色・形を楽しむ絵

赤ちゃんの想像力を大きく広げる

テーマ：動物・乗り物・色・形・親子の触れ合い

身の回りの世界を描いた優しい絵本が赤ちゃんの好奇心を広げる

<リズム・色・形>

・きんぎょがにげた ・おつきさまこんばんは ・ころころころ ・てんてんてん

・まるまる ・さんかくしかく ・まるてんいろてん (まるの世界を楽しむ)

<たべもの>

・くだもの ・きゅつきゅつきゅつ ・にんじん ・ぼんちんぼん

<乗り物>

・ぶーぶーじどうしゃ ・かんかんかん ・バルンくん

<親子>

・どうぶつのおやこ ・だっこだっこだーいすき (最後はお母さんに抱っこ)

・ひよこさん (お母さんの羽に包まれて) ・ちゅっちゅつ (温かさにあふれる)

<あそび>

・ねないこだれだ ・おててがでたよ ・くらくらい (当てっこが楽しい)

・ペンギンたいそう (思わず身体が動いてしまう)

<先輩ママ・パパのおすすめ>

・でぶでぶごぼご (オレンジ・赤・黄等の色の使い方・組み合わせリズムが楽しさを誘う)

・まるくておいしいよ (シルエットに問いかけ応えていく絵本)

・ぶーぶーぶー (車のお気に入りの男の子「ブーブー」「ブーブー」と・・・)

・よくきたね (生まれてきてくれてありがとう「おいでおいで」と言わんばかりのポーズ幸せな時間) など

<幼児編>

「どんな絵本を選んだらいいのかわからない」と、迷った時はロングセラー絵本 (パパ・ママが子どもの頃から読み続けられている)

話がわかりやすい 心にすっと入り込んでくる 懐かしい気持ちになりながら手に取ってみる また、新たな魅力を発見し、新鮮な気持ちで一緒に読んでみる

・てぶくろ ・ぐりとぐらのおきゃくさん ・11びきのねこ ・もりのなか

・どろんこハリー ・からすのパンやさん ・おばけのバーバパパ ・おばけのてんぶら

・ねずみのくんのチョコッキ ・ぐるんぱのようちえん ・めがねうさぎ など

<何も考えずに楽しむのが一番>

・ぶたのたね ・まあちゃんのながいかみ ・さつまのおいも ・おならうた など

<昔からの絵本>

・3びきのやぎのがらがらどん ・ももたろう ・3びきのこぶた ・おおきなかぶ



### <コミュニケーションが広がる絵本>

- ・そらいろのたね　・わたしとあそんで　・ぐるんぼのようちえん　・そらめくんのベッド
- ・だるまちゃんとてんぐちゃん　・わたしのワンピース　・かば
- ・ちょっとだけ（なっちゃんがちょっとずつお姉ちゃんになっていく、、、でもね）
- ・たろうのおでかけ（交通ルールを教えながらも元気いっぱい）
- ・あっちゃんあがつく（あ～ん、まで濁音・半濁音を含めて69音すべてが登場。ものすごい数のおいしいそうでかわいらしい食べ物が出てくる）
- ・14ひきのあさごはん　・ごろごろにゃーん　・ぶたたぬききつねねこ
- ・さる・るるる（大人の手のひらサイズの小さな絵本「～る」で終わることば（動詞）ばかりで展開していく　五味太郎の傑作絵本
- ・大きくなるということは（子どもたちは大きくなるって、どう感じているのでしょうか？）

作：中川ひろたか

など、各スタッフが在宅研修で学びを深め、コロナ禍の暑い夏を元気に過ごせる手段や夏に多い感染症、絵本の選び方などを利用者に伝えていった。

### 「学生の学びの場の提供」

#### <3回生ゼミ活動> 2021.7.14

本学3回生、植山ゼミ（10名）が子育て支援の学びを深めるために利用者親子と遊んだり、絵本の読み聞かせなどをしながら触れ合いを行った。そして、学生からは「おおきなかぶ」の創作ペープサートが演じられた。



なんて、声かけたらいいのかな？  
「一緒に遊ぼう？」でいいんじゃない？  
「勇気を出して、チャレンジ！チャレンジ！」



ドキドキする～！  
子どもの前でするの初めてやから・・・。  
どうしよう・・・。

子どもたちは、次々に登場する人や動物を触りに行ったりして大喜び。子どもたちの様子を見て学生たちも緊張が解けてきた。シナリオにとらわれず、自分たちの言葉とアドリブが出てきた。今回のゼミ活動が今後、子育て支援の手掛かりになったのではないかと思う。今後も学生のボランティア活動や学びの場としての受け入れをしていきたいと考えている。

<北区広報誌8月号に掲載される>

「にじっこ」の活動が北区の広報誌に紹介される

子育て情報が満載！！



夏の手作りおもちゃの紹介  
絵本「きんぎょがにげた」より  
制作に発展



### 「8月のにじっこ運営について」

当ひろばは、0～6歳（未就学児）が利用可能なため、夏休みになれば幼稚園年齢の子どもの利用が見込まれる。密を回避するため8月のみ、予約制を実施した。予約制のアナウンスは、北区の広報誌及び「にじっこ」内に7月より掲示を行った。

ちょうどこの時期、緊急事態宣言が発令されていたので、予約制については理解が得られた。



\* 予約制を知らずに来館された方も、利用人数に、余裕があれば受け入れ可能にしているため、トラブルには至らなかった

## 「ミニ プラネタリウム」～プラネタリウム・デビューしませんか?～を企画

7月の☆七夕祭り☆のスライドショーから始めた。

昭和を感じさせるスライドとカセットテープから流れる語り掛けと、夏の夜空や海の魚たち（スタッフの手作りシート）が映し出されると、子どももママたちも大喜び！

子どもが恐怖感を持たないように室内はあまり暗くせず、出入口にはカーテンを使用し出入りも自由にした。

プラネタリウムの投影は15分程度。投影室（講義室）の壁、天井、床のマットなどにスライドを投影すると子ども達が映像を追いかけたり、触れたりとプラネタリウムの世界を親子で楽しんだ。



手作りミニプラネタリウム  
「わあ～、タコさんだ～!!」



かにさんだ～！  
イルカさんも～、  
カメさんもこんにちは～！  
「待ってよ、待ってよ～」  
「どうぞ、触ってみてね？」  
「次は、誰がやってくるかな？」  
「出ておいで～！」

## 「学生ボランティア受け入れ 7月～12月 計6名」

(教科：ボランティア実習 5日以上、40時間 1単位)

ようやく本学学生による実習生の受け入れが可能となり、6名の学生の子育て支援の学びの場となった。1年生の学生ばかりで、まだ保育実習の経験がなく、就学前の小さな子どもと触れ合ったことがない。また、小・中学校の教員を目指す学生は、今後も乳幼児と触れ合うことがないので、「にじっこ」で親子と触れ合ったり、子育て支援の様子を学びたいという理由が多い。まず、日課として大型マグネット壁面構成、玩具・室内の消毒、清掃である。乳幼児との触れ合いがなかったという学生も子どものそばに座り、一緒にままごとコーナーでお料理を作って遊んだり、電車の線路を作り電車ごっこをして遊んだりする姿が見られた。絵本の読み聞かせは少しハードルが高く、子どもが聞いてくれず他のあそびへ移動するなど

困っていた。利用者の子どもは保育所などでの保育経験もなく、毎日利用する子どもではないので焦らないこと。お母さんに読んであげてもいいことを伝えると「それでいいんですか？」と驚いていた。無理せずお母さんが楽しんで絵本を見ている姿を子どもに見せるのも絵本の読み聞かせへの導入となる事を伝えていった。



学生による、子どもへの絵本の読み聞かせ



手作り玩具作成（学生）  
イベントの準備の手伝い  
子どもと関わる以外にも、いろいろな仕事があることに気づいた

「にじっこ」でのあそびの様子

バンサーでゆ～らり、ゆ～らり♪～



「ママ、見ててね」



ママたちも「こんにちは」



「おはなし、始まるよ～」



～こんな、玩具があるよ！～

パズル&ドーナツを積み上げろ～！



人気No.1 コトコトくるま



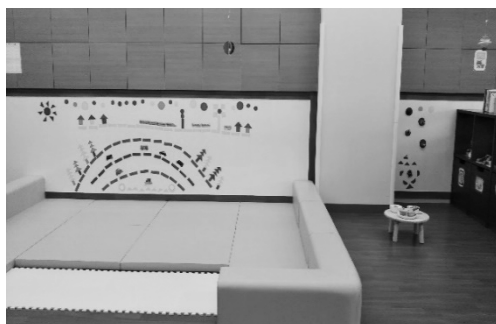
木槌でトン・トン・トン



プラレールは楽しいなあ～



大型マグネットコーナー



ままごとコーナー



絵本コーナー



輪投げ&お池で遊ぼ〜♪



「イベント：みんな あつまって〜！」 < 8月〜11月 >

制作：トンボのめがね



大型絵本：「パパ、お月さまとって」



大型絵本：きんぎょがにげた



「何が始まるんだ〜?!」



ハロウィンDEハイポーズ（グッズ作り）



制作：電車でGoGo!!



電車で遊ぼう〜♪（制作物を使って）



共同制作（利用者親子作品）



エプロンシアター（くいしんぼ ゴリラ）



ゴリラのハナちゃんにびっくり!



毎月、第3水曜日 10:00~10:30 14:00~14:30実施

参加者は、午前、午後平均して7~8組、各16~18名ほどが楽しんでいる。

内容は、季節感を大切にしながら、大型絵本、パネルシアター、エプロンシアター、制作、わらべうたが中心である。

わらべうたは、親子の触れ合いを通して、愛着形成の確立と醸成を促すツールで、民族の伝承遊びと捉えられている。また、「にじっこ」での遊びが自宅に持ち帰り、引き続き親子の触れ合い遊びとなってほしいと願っている。

### ドキュメンテーション（室内掲示）イベントの様子



掲示：<9月~11月>

9月：とんぼのめがね

10月：ハロウィン

11月：電車ごっこ

イベントの様子を掲示している。今までイベントに参加したことがない利用者も掲示を見て、興味関心を持つようになり徐々に参加者が増えてきた。(午前、午後計20~22組、40~45名)

下記に示しているのは、イベントの指導案（細案）である。保育士が利用者の年齢や発達段階を踏まえ、季節感を大切に「ねらい」をもって計画を立てている。イベント終了後、反省、評価を行い次回のイベントに役立てながら保育の質の向上を目指している。

### イベント指導案（細案） 午前部（10:00~10:30）

行事名	みんな あつまって~!			担当	〇〇	〇〇
日時	令和	3年	9月 15日 (水)	参加人数	6組	16人
本時の主題	親子でとんぼのめがねを制作する					
ねらい	カラーセロハンを使っためがねを制作し、普段の見え方と違う色の世界を楽しむ					
時間	環境構成	活動	スタッフの配慮			
10:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーボード設置</li> <li>・利用者同士が距離取って座るように目印を置く</li> <li>・動作がわかりやすいよう人形を使って説明する</li> <li>・絵本が見えやすい位置にスタンドを配置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おはようのうた」を歌う</li> <li>・わらべうたで遊ぶ「とんぼとんぼ」</li> <li>・大型絵本「パパ、お月さまとって」を読む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者同士距離がとれる様誘導する</li> <li>・ゆっくりとしたテンポで歌う</li> <li>・年齢に合わせて動きに変化をつけて遊ぶ</li> <li>・仕掛け絵本なので、期待感を膨らませれる様な読み方を心がける</li> </ul>			
10:15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種パーツはまとめてセットし、準備しておく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作をする「とんぼのめがね」</li> <li>・出来上がった「とんぼ」で遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パーツの配布は、参加人数に応じた対応をする</li> <li>・完成しためがねを使って見え方の違いを楽しんでもらえる様な声かけする</li> </ul>			
反省 評価	わらべうたのふりを伝えるのが上手くできなかった。めがねの色の見え方、遊び方に興味をもってもらえるよう話をしたので、作りながらめがねを覗いて楽しむ姿が見られた。					



\* 神戸市よりコロナ禍における安全・安心運営について（再度 通達文書が届く）

神戸市子ども青少年課よりひろば事業新型コロナウイルス感染症予防対策について、5月22日、7月1日（改訂）にて通達があり、再度職員間で対策について確認を行った

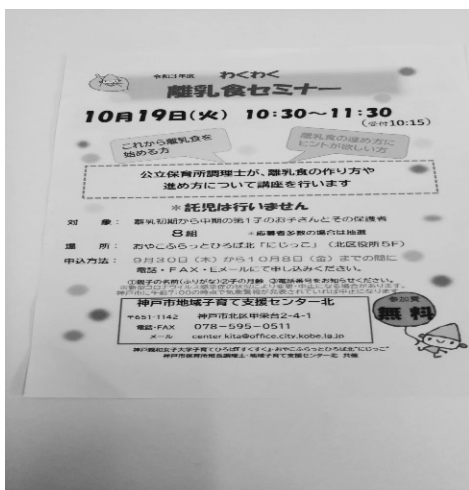
- ・消毒（玩具、床、マット等）検温、換気の徹底
- ・予約制は行わないので同時間を過ごす利用者は上限10組にする  
利用者家族のライフスタイルを優先しているため、利用時間にばらつきがあり密になりにくいですが利用者数の確認を行う
- ・手に取った絵本は回収籠に入れ、別室において2日間管理したのち本棚に戻す
- ・乳児が口に含んだ玩具は回収BOXに入れ、徹底消毒を行う
- ・イベントは参加者の間隔をあげ、10組までの人数で行う 所要時間は30分以内
- ・職員は健康調査票に検温、体調を記入し健康に務めるなど、安心・安全な運営を行う

職員会議風景



毎週水曜日、12:15~13:00  
全職員（6名）で、伝達事項、イベント内容、情報交換などを行い共通理解を深めている。  
記録は順番に行い、ファイリングして必要に応じ確認する。

令和3年度 第1回 わくわく離乳食セミナー



参加者：8組の親子（4か月～8か月の乳児）

日時：10月19日（火）  
10:30～11:30  
場所：おやこふらっとひろば 北「にじっこ」  
共催：神戸市地域子育て支援センター北  
神戸市公立保育所班長調理師会  
神戸親和女子大学子育て支援 すくすく  
神戸親和女子大学子育て支援 にじっこ



公立調理師会の調理師より、離乳食開始の際の注意点や進め方について、映像を交えて話を聞く

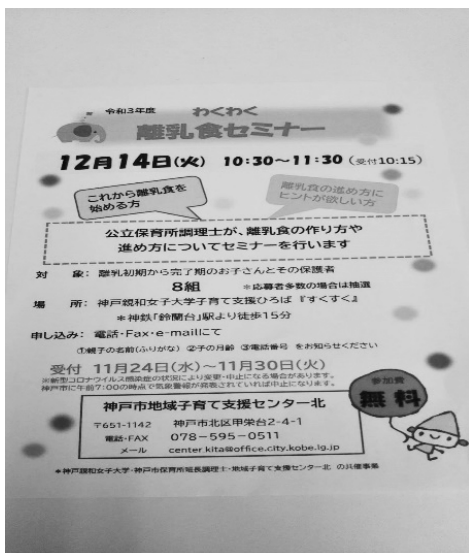


子どもの月齢に合わせて、2グループに分かれ調理師を交えて活発に話し合う

### 離乳食セミナーを終えて（アンケートより）

- ・離乳食の始め方や作り方など、ネットでしか情報がなかったが、具体的に話が聞けたので不安が和らいだ やれるかも？と思った
- ・神経質になり過ぎていたが、ゆったりと離乳食を進めたらいいんだとわかった
- ・ネットの情報より信用ができたと思った
- ・同じような月齢の子どもばかりだったので、ママたちともこれから相談できると思った
- ・私だけじゃなく、みんな同じような不安を持っていることがわかり安心した（変かな？）等、参加者の学び、やる気、満足に繋がった。

### 第2回 わくわく離乳食セミナー



対象：離乳食完了期まで

日時：12月14日（火）

10：30～11：30

場所：神戸親和女子大学内 「すくすく」

共催：神戸市地域子育て支援センター北

神戸市公立保育所班長調理師会

神戸親和女子大学子育て支援 すくすく

神戸親和女子大学子育て支援 にじっこ

映像を見ながら



月齢、離乳食の進み具合にわかれて



離乳調理師先生からクイズです！



サンタさん登場！！（？？だれだ?!）



#### 離乳食セミナーを終えて（アンケートより）

- ・初期、後期と柔らかさをあまり変えなくて大きさを変えたらOKだとわかった
- ・食べさせないと思って一生懸命になり過ぎていた。気楽にしたほうが良いとわかった。
- ・手間がかかる方法しか知らなかった。簡単な調理法を知ることができて、思っていたより楽にできるかもと感じた。
- ・モグモグしているかしていないか分からなくて丸飲みしていそうな感じがしていたけど、柔らかすぎるのもダメと初めて知れてよかった。
- ・離乳食全体の話の後に、少人数でのグループワークがあってよかった。
- ・ただ話を聞くだけでなく、他のママと話せたり親身になって聞いてもらえてよかった。

本学、子育て支援「すくすく」にて第2回離乳食セミナーが実施された。第1回セミナーを踏まえて離乳食完了までの内容となった。しかし、離乳食がスムーズに進まず不安な母親もいるので、それぞれの進み具合に合わせて助言、調理方法を丁寧に教えていただいた。まず、母親の不安な気持ちをやわらげていくこと、同じような月齢の子どもを持つ母親、先輩ママとの出会いなど、子育ての悩みや楽しさを共有する場が必要である。

# わくわく離乳食セミナー

(日案)

令和3年 12月 14日 (火)				10:30~11:30		
対 象	離乳食初期のから完了期のお子さんと保護者			場 所	神戸親和女子大学 『すくすく』	
ね ら い	・離乳食を進めるためのポイントを知らせる			調理士	5名	
				スタッフ	・子育てひろば『すくすく』 ・おやこふらっとひろば 北 ・子育て支援センター北	
時間	活 動			準備物		
9:30	○会場準備			《環境設定》		
	○受付準備			・マット		
				・赤ちゃん用おもちゃ		
10:15	○受付			・テーブル		
	・名札を渡す					
10:30	○あいさつ( )			《視聴覚機材》		
	○スタッフ紹介 (自己紹介)			P C…すくすく		
	○本日のスケジュールの連絡 (センター)			プロジェクター…すくすく		
				スクリーン (壁) …すくすく		
10:35	○離乳食について			ラジカセ…すくすく		
	・離乳食の話					
				○親子の様子を見ながら、必要な対応を行う		
	・動画を見ながらの作り方					
11:00	○個別相談 3グループに分かれて					
11:20	○お楽しみ			《準備物》センター北		
	・りんごころころ 4回繰り返す			・参加者名簿、親子名札		
	・トナカイ・サンタ登場			・赤ちゃん用おもちゃ		
	プレゼントをもらう			・アンケート用紙 (鉛筆・バインダー)		
11:30	○おわりのあいさつ ( )			・カメラ・CDクリスマスソング・消毒液		
	○アンケートに記入後、自由解散			・資料 ・サンタの衣装 ・プレゼント		
	子どもの様子を見て、早く帰る方			・鈴3個 ・サンタの袋		
	アンケートの回答をお願いする					
反 省	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートから参加者の満足度の高さがうかがえた。</li> <li>・写真撮影をしてほしくない保護者もいたので、申し込み受付の時に聞き取っておくほうがよかった。</li> <li>・駐車場利用者に申し込み時に丁寧な案内をするべきだった。</li> <li>・今回は、質問がたくさん出て、グループワークが弾んだ。グループワークでいろいろとしゃべる時間があったことがよかった。</li> <li>・離乳食に困ってない保護者もセミナーに参加して、大丈夫なんだと背中を押してもらうことで自信を持つことができる。若い保護者の支援につながる。</li> <li>・離乳食が完了したあとの、食育講座があってもいいのでは？好き嫌い、食習慣など、違う課題が出てくると思うので。</li> <li>・お楽しみコーナーは、好評だった。保護者も楽しいひとときを過ごせてもらったのでは？</li> </ul>			備 考	【12月6日(月)確認事項】	
					・名札には月齢と何回食か明記	
					・申し込み11月24日から11月30日	
					・親和：HPアップ すくすく日より	
					・センター 11月HPアップ	
					広報11月号掲載・4健チラシ配布	
					・資料等データは〇〇にメール	
					・スタッフは当日9時過ぎ入室可	
					・保護者は駐車場利用可	

## 行政・小学校との連携

平成3年度神戸市新任職員の研修として「にじっこ」の施設見学及び運営方法、地域の子育て支援の在り方等、行政の役割を学ぶ場となっている。

新任職員は将来の自身の生活設計に合わせた利用、活用方法や少子社会に歯止めをかけるには、若い世代へどのような支援が必要なのか など、関心を持っている。

「にじっこ」の認知度も高まり地域での役割や活動内容が広まってきている。さらに子育て中の親子、子どもの育ちに不安を抱える親など、子育てのアドバイスが気軽に受けられる、くつろげる、居心地の良い場所となるよう関係機関と協働、連携を図っていききたい。

小部小学校2年生、課外授業（町たんけん）に12名、引率教員2名、区役所職員2名が2グループに分かれ「にじっこ」に訪れた。

## 施設内見学

「わあ～、かわいい！！」「遊びたーい！」「私の弟が遊びに来たことがある～」

続いて、「にじっこ」について説明

## 質問タイム

1. 今まで何人くらい遊びに来ていますか？
2. 遊びに来る子どもの年齢はい何歳位ですか？
3. 「にじっこ」は、いつ頃できたんですか？
4. どうして「にじっこ」を利用すると思いますか？（スタッフから） など

児童の積極的な質問ややり取りで、印象的なコメントはNo.4で、「暇つぶしに来てるの？」には、大人たちは大笑い。

スタッフ：「いえいえ、楽しく遊びに来てるんですよ。お母さんと遊んでるんだよ。」

女兒：「暇つぶしにきてるのかと思ってたわ。」

男児：「違うわ。そんな～、いっぱいおもちゃがあるので楽しいと思うわ」

：「また、弟と来るわ。」

スタッフ：「ごめんね。小学生はだめなんですよ。残念！」

「ご近所で小さな子どもがいたら、「にじっこ」に遊びに行ったら楽しいよって教えてあげてね」  
楽しい雰囲気です。「にじっこ」の役割について学んだ。

学童期から様々な場所で子育て支援の施設、役割があることを知ってほしいと思う。

## おわりに

「にじっこ」2年目の取り組みは、本学子育て支援「すくすく」保育士のとの合同研修会、学生の実習受け入れ、ゼミ活動、イベントの指導計画の立案と反省・評価（1年目より実施）、イベントのドキュメンテーションの掲示、北区広報誌掲載など、「にじっこ」の活動が地域に紹介された。また、本学学生の学びの場の提供、教職員との連携、関係機関からの見学の受け入れなど大いに活動の輪が広がってきた。様々な活動を経験することでスタッフの子育て支援に対する思いや取り組みが自信につながり、保育の質の向上が大いに図られた。

まだコロナ禍が続く中での運営に関しても、十分に安全・保健衛生に注意をしながら、地域の子育て支援の拠点になっていきたいと思う。

日々の子育てで疲れているママたちが「にじっこ」に行けば、知りたい子育て情報が得られる。子育ての困り感を気軽に話せヒントが得られる。予約がなくてもいつでもスタッフが迎え入れてくれると感じられる居場所でありたいと考えている。

今後の課題として、「ひろば」にも出ていけず子育てに苦しんでいる家庭があると思う。そのような家庭にはどのような支援が必要か など、行政、関係機関と連携して地域に必要とされる子育て支援を目指していきたい。

また、本学は、保育士、幼稚園教諭、保育教諭の養成校としての歴史と実績がある。

「にじっこ」が、子育て支援の重要性を学ぶ良い実践の場である。また、他学科の学生の学びも図れるように次世代育成としての役割も担っていきたいと考えている。

#### にじっこ利用者数 2020年度、2021年度

2020年度（6月～3月） \* 6月開所（コロナにより開所が2か月遅れ）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	大人	組数	相談
687人	802人	492人	403人	2,285人	1,192組	43件

2021年度（4月～12月） \* 12月現在（紀要原稿締め切りに合わせ）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児以上	大人	組数	相談
725人	825人	367人	431人	2,221人	1,913組	32件